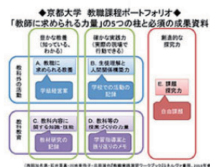


教育学

教職実践演習

石井 英真 准教授(教育学研究科)
西岡 加名忠 准教授(教育学研究科)
学年・対象 4 年生
授業形態 課題演習



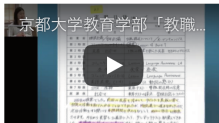
授業の概要・目的

本演習では、まず教職課程において各自が身につけてきた力量について、ポートフォリオをもとに検討し、それぞれの受講生に不足している知識・技能等さらに伸長すべき資質能力を明らかにする。次に、ニーズに応じた学習活動(自主学習会・模擬授業の実施・公開研究会・ワークショップへの参加など)を行うことにより、力量形成を図る。最後に、演習における成果を報告し、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認する。

シラバス

- ・ 授業計画と内容
一・二・オリエンテーション(教師に求められる力量についての講義・ワークショップ)
三・四・基礎的素養の養成(基礎的素養の養成)
五・六・専門性の養成(専門性の養成)
七・八・教職実践演習(教職実践演習)
九・一〇・公開研究会・ワークショップへの参加など
一一・一四・本演習における成果報告
一五・まとめ
- ・ 履修要件
「教育実習」を履修し、当該年度に教員免許状を取得見込みの者(卒業見込み)を前期に実施する「教職実践演習」を実施し、前期に実施する「教職実践演習」の実施について必ず参加すること(各年度の柱について、必ず教科の専門性をさらに深めたい者が履修すること)を要する。本演習の履修決定活動においては、自主学習会・模擬授業の実施、公開研究会・ワークショップへの主体的な参加を求める。
- ・ 評価方法
授業における課題への取り組みと、成果物を収めたポートフォリオについて評価を行う。
- ・ 教科書
教職実践演習ワークブック、西岡加名忠・石井英真・北原栄也・川地聖弥著、「ミネルヴァ書房」(近刊)

教職課程ポートフォリオ 学生プレゼンテーション



文学部 4 年生 神田 知美さん
取得予定免許：高等学校 英語

映像内掲載資料 PDF
・ 英語 Day1 を授業に取り入れるための指導計画 クリスタル
・ 学級経営案
・ 実習日誌
・ 実習生 クリスタル
・ 英語科教育 佐井 研
・ LAUGH AWAY IN ENGLISH



文学部 4 年生 古田 啓さん
取得予定免許：中学校 高等学校 英語

映像内掲載資料 PDF
・ 研究授業学習指導案
・ 学級経営案
・ 教育実習を通しての課題点
・ 活動の記録
・ 目次
・ 目標に到達したことを示す成果資料
・ セッション 7 教職に求められる教養



農学部 4 年生 笠原 希美さん
取得予定免許：中学校 高等学校 理科

映像内掲載資料 PDF
・ 教職実践演習資料
・ 実習日誌
・ 授業指導案
・ 授業指導案
・ 実習日誌
・ 実習生 希美



教育学部 4 年生 三森 彩乃さん
取得予定免許：中学校 高等学校 国語

映像内掲載資料 PDF
・ 教材研究資料
・ 実習日誌
・ 学級経営案
・ 国語科学習指導案
・ 特別活動の理論と実践
・ 教育実習用メモ
・ インターネットの記録
・ 教師力アップゼミナールの記録



理学研究科 博士課程 3 年 前田 真希さん
取得予定免許：中学校 高等学校 理科

映像内掲載資料 PDF
・ 活動の記録
・ 高校における生物教育の可能性を探る
・ 学級経営案
・ 実習日誌
・ 反省記録
・ 教材研究
・ 学習指導案
・ 反省記録
・ 生徒感想
・ 高校における生物教育と観人法との関係
・ 教育実習「エコプレゼン」資料
・ ポートフォリオ資料一覧
・ 目標到達確認指標



docomo 17:35

← www.ffjj.sakura.ne.jp/ 2 ⋮

京都大学

オープンコースウェア
KYOTO-U
OCW
OPENCOURSEWARE

文学



志香也百

「百花香」

近代日本最初の独創的哲
西田幾多朗先生のオープ

西田幾

電子回路



電子回路の基礎の習得を目標とします。基本的なことから積み上げて電子回路を理解していく立場で講義します。このことによって、より複雑な回路の動作をも理解できる応用力まで身につけてもらえればと期待しています。

物性・デバイス基礎

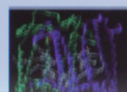
電子が関与する固体の各種性質、現象を習得する。電子のエネルギー状態を量子力学的に理解し、平衡状態における粒子のエネルギー分布や電子統計力学の観点から理解し、固体を構成する化学結合や結晶構造、電子の輸送現象や電子放出を理解する。固体内や真空中における電子の挙

臨床薬物学

循環器、血液系、泌尿器、呼吸器、消化器で発生する病状の治療に用いられる薬物の薬理について、これら臓器の生理、疾患の検査や発生機序、薬物治療のターゲットとなる生体分子と薬物の分子作用メカニズム、臨床応用での薬物選択における注意点を問題点に加えて、新薬の開発動向や関連する学問領域の最新知見について講述する。



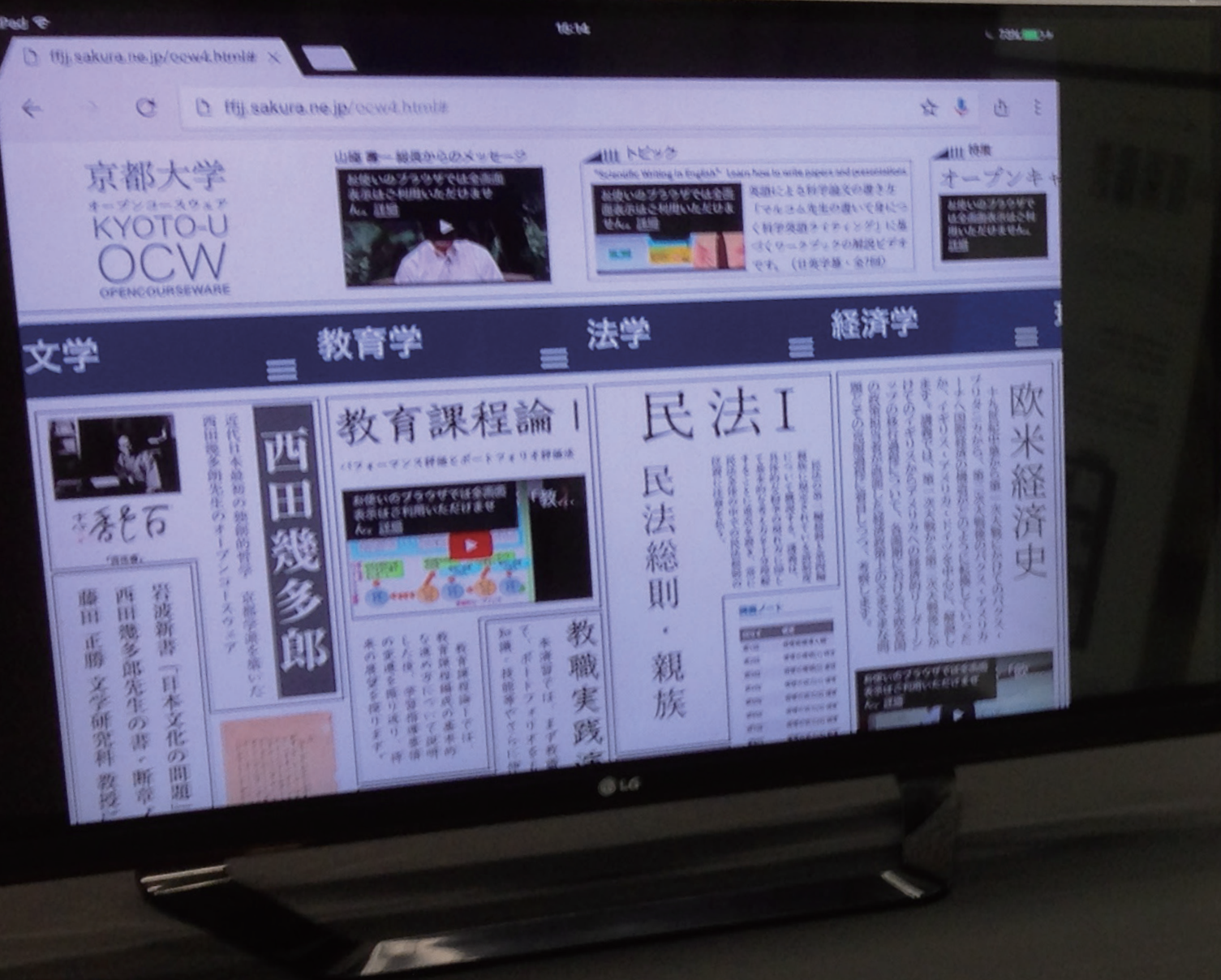
化合物の化学構造に関する物理化学的パラメーターを用いて、さまざまな生理活性の変化を統計的に解析する定量的構造活性相関(QSAR)の手法およびその応用例について概説する。この手法は、医薬品のデザインにおいてきわめて有用であり、世界中で広く用いられている。



有機化学 V







京都大学
オープンコースウェア
KYOTO-U
OCW
OPENCOURSEWARE

文学 教育学 法学 経済学

西田幾多郎

近代日本最初の独創的哲学者
西田幾多郎先生のオープンコースウェア

京都大学を創った

岩波新書「日本文化の問題」
西田幾多郎先生の著・断章
藤田正勝 文学研究科教授

教育課程論 I

ビデオ・オーディオ・テキスト・資料集

お使いのブラウザでは動画表示はご利用いただけません。詳細

教育課程論 I では、教育課程編成の基本的な考え方について説明した後、学習指導要領の変遷を振り返り、将来の展望を探ります。

民法 I

民法総則・親族

民法の第一 総論と親族編

民法の第一 総論と親族編について説明する。民法は、私法の中でも最も重要な分野であり、日常生活に密着している。民法の第一 総論と親族編は、民法の基礎となる部分であり、民法の理解に不可欠である。

欧米経済史

本講義は、欧米経済史の発展を、第一次大戦前までの歴史、第二次大戦後の歴史、第三次大戦後の歴史の三つの時期に分けて、その発展の経緯を説明する。また、欧米経済史の発展の背景となる政治・社会・文化の要因についても説明する。



Overview

京都大学オープンコースウェア (OpenCourseWare, 以後 OCW) とは、京都大学がインターネット上に、無償で講義資料や講義映像を公開する、オープンエデュケーションの一つである。京都大学 OCW では、実際に存在する大学の学部や研究科の講義の構造に対応したコンテンツのナビゲーションデザインを構築し、そのルートを辿って、ユーザーは講義映像や資料のコンテンツにたどり着く。これは、在学生や高等教育機関の研究者であれば、十分に分かりやすいものになっている。しかし、それ以外のユーザーには、知りたい情報、興味のある情報に、たどり着くための最適なデザインになっているか疑問が残る。また、在学生や高等教育機関の研究者であっても、ユーザー自身の知りたい情報が、他に複数の学問分野に存在している場合、気が付きにくい構造になっている。本研究ではこのような疑問を契機とし、京都大学 OCW の「分かりやすいデザイン」を新たに探った。

京都大学 OCW のサイトをデザイン的に構成する要素に分けて研究を進めた。京都大学 OCW のサイトを構成する要素は、文字 (フォント)、画像、映像が挙げられる。文字をレイアウトする事によりタイポグラフィが生まれ、それに写真画像や映像が加わり、全体のレイアウトデザインが生まれてくる。同時にレイアウトは、ユーザーにとってインターフェースとなり、WEB サイト上では、それだけでもユーザーにナビゲーションを促す要素となる。

インターネット上での文字情報の表現においては、現在「WEB フォント」というものが使用できる。これはユーザーがサイト閲覧の際に、サーバ上に置かれているフォントデータを参照し表示させる事ができる技術で、これまでの HTML と CSS だけでは、詳細のフォント指定が不可能であったが、この技術では、制作者が指定した特定のフォントを表示させることができる。その中でもユニバーサルデザインフォントの比較検討を中心におこない、京都大学 OCW のサイトに適したフォントの考察をおこなった。

次にレイアウト・ナビゲーション調査・実験では、まず紙面でのレイアウトがこれ迄にどのようにおこなわれ、それが歴史を重ねるごとに多くの人々に流通し、変化してきたかを新聞のレイアウトを通して調査をおこなった。新聞は印刷の発明から輪転機が発明され多くの人が手に取ることができるようになった印刷物の一つである。このように、ある技術が開発されてから、その技術に対してもう一段階次の発明が加わり、一般の人々が使用できるようになった時、その媒体におけるレイアウトデザインには、どのような変化が起きたかを調査するため新聞のレイアウトを取り上げて調査をおこなった。その結果、日本語特有の縦組横組の混在、それぞれのコンテンツが入れ子構造にレイアウトされていることにより斜め読みが可能になり、コンテンツ全体を俯瞰しながら、またそれぞれの詳細のコンテンツを読む事が可能になる事など様々な利点がある事が分かった。

次に、現在インターネット上のコンテンツを視聴する事ができる様々なデバイス環境で、どのようなレイアウト・ナビゲーションデザインがおこなわれているか調査・実験をおこなった。WEB サイトを視聴するデバイスは主に、PC、タブレット PC、スマートフォンなどであり、それらは画面の大きさの絶対値が決まっておらず、コンテンツはそれぞれのデバイスに合わせた可変性が求められている。そしてそれは現在レスポンシブルデザインで WEB サイトを作成する事で実現されている。レスポンシブルデザインで多く見られた方法は、各コンテンツをそれぞれできるだけ小さな単位で構成し、それらを帯状またはタイル状でデザインしレイアウトする事によって、どのような大きさのデバイスでも、そのデバイスの大きさによって、帯、タイルの大きさや量を可変させることにより達成されていた。

ここまでの新聞のレイアウトつまり日本語のレイアウトの「歴史」からのデザインアプローチの調査と、デバイスの形状つまり情報が載る「媒体の形」から逆算して作るデザインアプローチの調査をおこなった。次にこれらを組み合わせたレイアウト・ナビゲーションデザインを使って新しい京都大学 OCW トップページのプロトタイプデザインを制作した。このプロトタイプ制作ではフォント調査で取り上げた WEB フォントを活用し制作をおこなった。それが今回展示をおこなっている、京都大学 OCW プロトタイプ WEB サイトである。

このプロトタイプ制作では、講義コンテンツ俯瞰し斜め読みする事ができる点、さまざまなサイズのデバイスでの視聴などの点において、優れた役割を担うことができる新たなレイアウト・ナビゲーションデザインが達成できたかと思う。

京都大学 OCW のユーザーは多種多様であり、それに対応する必要がある。そして、表示されるデバイスの形状も年々変化を遂げていく、このような変化が多い状況で、全てに答えるデザイン一つを求めるよりも、インターフェースを多種多様に持ち、それぞれのニーズに応え続けていく方法が良いのではないかと考えられる。またこのインターネット環境においては、一つのコンテンツに対して、多様なインターフェースを持つことが可能になったとも言えるのではないかとと思う。

Enlarged View

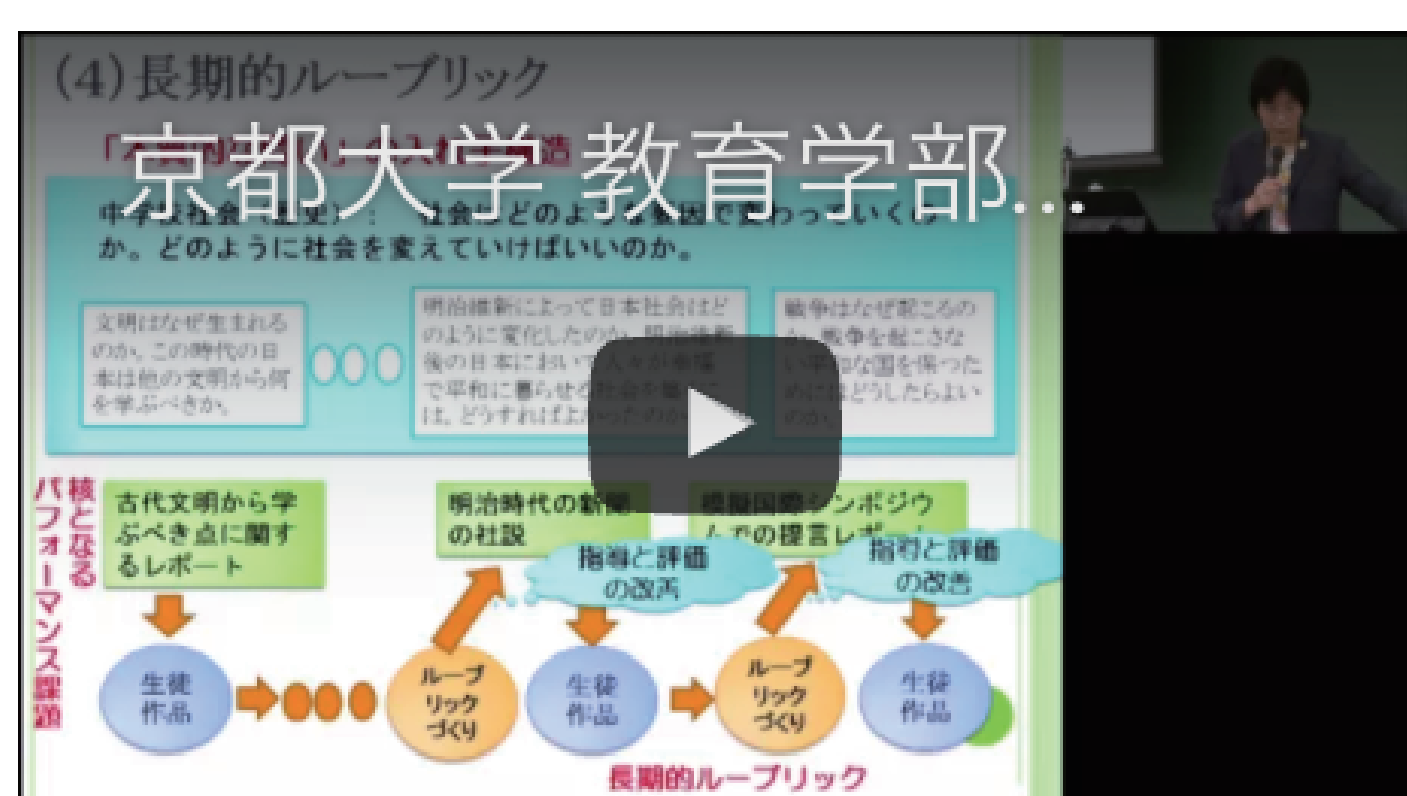


詳細閲覧



教育課程論 I

パフォーマンス評価とポートフォリオ評価法



教育課程論 I で
教育課程編成の基
な進め方について
した後、学習指導
の変遷を振り返り
来の展望を探りま

教職実
本演習では、
て、ポートフォ
知識・技能等や

民法 I

民法総則・親族

民法の第一編総則と第四編親族に規定されている諸制度について概説する。講義は、具体的な紛争の現れ方に即して基本的な考え方を十分理解することに重点を置き、常に民法全体の中の民法総則の位置に注意を払う。

講義ノート

SES #	概要
第1回	債権総論導入編
第2回	債権の種類(1) 特定
第3回	債権の種類(2) 金銭
第4回	債権の効力(1) 債権

欧米経済史

十九世紀中葉から第一次大戦にかけてのパクス・ブリタニカから、第二次大戦後のパクス・アメリカーナへ国際経済の構造がどのように転換していったか、イギリス・アメリカ・ドイツを中心に、解説します。講義では、第一次大戦から第二次大戦後にかけてのイギリスからアメリカへの経済的リーダーシップの移行過程について、各画期における米欧各国の政策担当者が直面した経済政策上のさまざまな問題とその克服過程に着目しつつ、考察します。



物理気

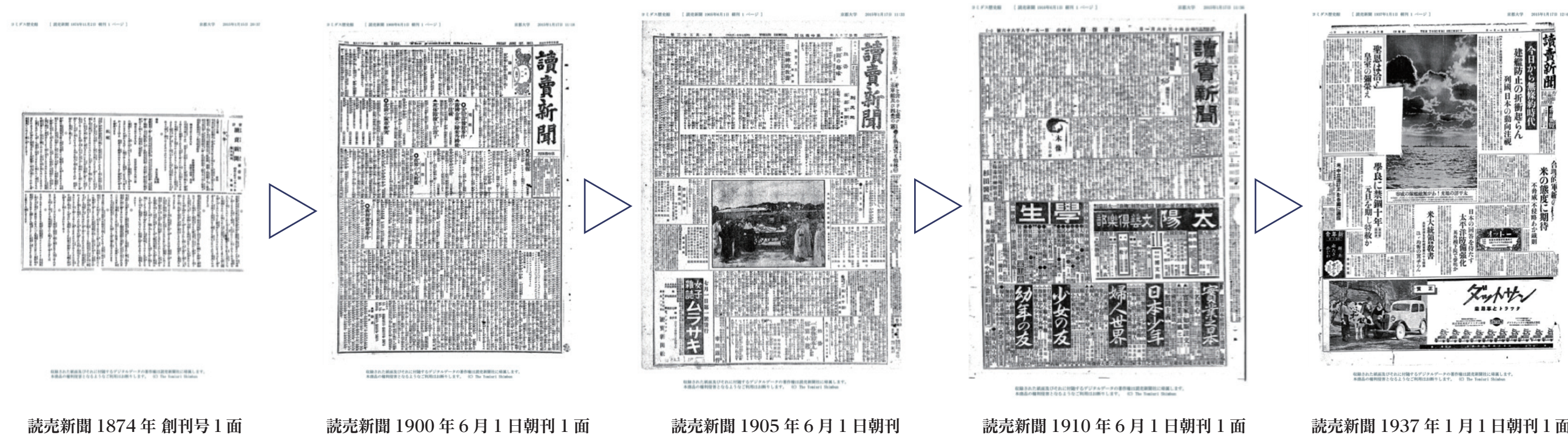
て気候形成・変動の
礎をつくる。

広域俯瞰



Concept

新聞レイアウトデザインの歴史



新聞のレイアウトは、起源として、隣り合う広告同士の誘目性の競い合いが本文記事の見出しやレイアウトに影響し、文字組の入れ子構造は、限られた紙面の中でいかに多くの記事を取り扱うかから生まれたレイアウトであると言える。新聞レイアウトの特徴的な見出しと入れ子構造による立体的なレイアウトは、四角い紙面に対して、レイアウトされた印象的な場として、視覚的效果をより強く感じ、印象を残す効果があるのではないかと考えられる。

利点

見出しや記事の面積による情報量の視覚化

縦書き横書きの混在による誘目性の向上

斜め読みを可能にする

WEBにおけるレスポンシブルデザインの特徴



コンテンツを最小の単位、見出し文字やサムネイルなどだけで区切りモジュール化をおこない、それを四角のウィンドウの中に、帯状またはタイル状に納め画面にレイアウトする事により、効率よく無駄なくレイアウトできる。そしてそれ自身が、ボタンもしくはリンクのトリガーとなり、ユーザーを本文のコンテンツに誘導する事ができる。できるだけその帯やタイルを小さくまとめる事により、より小さなデバイスでもできるだけ多くの事柄を載せる事が可能である。このレイアウト・ナビゲーションデザインであれば、あらゆるデバイスに対応する事ができる、レスポンシブルデザインとなっている。

利点

PC、タブレット PC、スマートフォンなど

様々な画面の大きさでも対応することができる。

新聞レイアウトという、紙面でのレイアウトの歴史からのデザインアプローチと、デバイスの形状つまり情報が載る「媒体の形」から逆算して作るデザインアプローチ。ここではそれを組み合わせたレイアウト・ナビゲーションデザインで京都大学 OCW プロトタイプ WEB サイトの制作をおこなった。



この制作においては、レスポンシブルデザインの良い点を用い、コンテンツをモジュール化し、その情報を羅列して表示する事により、画面の大きさが様々に違ったデバイス上でも、同じ印象を与え、可読性に優れた表示を可能にする事ができた。これは全ての文字表記に WEB フォントを利用した事も大きな役割を果たしていると考えられる。そして、見出しや本文を、帯状やタイル状に表記し羅列レイアウトすることによって起こる、各コンテンツの印象がなくなり誘目性が欠如する事を補う為に、新聞のレイアウトの良い点を用い、レイアウトの入れ子構造や縦書き横書きの混在したレイアウトを取り入れたことより、解消する事ができたように考えられる。

デバイスによって可変するという意味でのレスポンシブルデザインではないが、モジュールの集積をレイアウトしトップページを作った事により、常に全体を俯瞰しつつ、興味のあるコンテンツへ直接アクセスする事が可能になっている。各コンテンツが横に隣り合って表示される事によって、斜め読みする事が可能になり、そこに直接的な関係性はないが、ユーザーの次への興味を常に喚起する事でできているのではないかと考えられる。

